■三浦新七　　歴史家。比較文明史の領域に新境地を開き，一時は銀行頭取を務めるも，復帰して研究教育に努めた。
みうらしんしち
西南戦争・・1877＝　　山形の旅籠町で，呉服太物卸商三浦新兵衛の第八子四男に生まれる。

_生家は幕末以来の御用商人で，本家の当主三浦権四郎は豪商で，傍ら金融業をも営み，国立第八十一銀行(のちの両羽銀行)が創設されると，その頭取を務める。
明治14年政変1881＝ 4歳：

幼いとき母を亡くし継母に育てられるが，本家に男子がなかったため，早くから本家の娘と婚約。

帝国大学始・1886**＝ 9歳：**

帝国憲法発布1889＝12歳：
_山形県尋常中学校に進学すると，生涯の親友となる結城豊太郎らと，{山形共同会雑誌}を発行して，言論活動に励み，

1年飛び級して
日清戦争始・1894＝17歳：
日清戦争終・1895**＝18歳：_首席で卒業。上京して高等商業学校に入ると，**

_「わが経済界困弊の原因およびその救治策」などの論文を発表して，その名を知られるようになり，

田中正造直訴1901＝24歳：**_同校専攻部銀行科を卒業すると，直ちに商業教員養成所の講師に就任，**
教科書疑獄・1902＝25歳：**_母校の講師に任官される。**
日比谷公園・1903＝26歳：**_文部省留学の命によって，ドイツへ赴き，**
日露戦争始・1904**＝27歳：**
日露戦争終・1905＝28歳：
主にライプツィヒ大学のカール=ランプレヒト教授の指導下で文化史の研鋏を積み，

大逆事件判決1911＝34歳：**_母校の教授に昇任後，**
明治天皇没・1912＝35歳：**_9年ぶりに帰国。結婚し，本家の婿養子となる。**
大正政変・・1913**＝36歳：**
高商では商業史と経済史の授業を担当，

民本主義・・1916＝39歳：***法学博士の学位を授与される。**

_没後に刊行される不朽の名著「東西文明史論考」収録の9編の論文中，5編はこの間のもの，

大暴落・・・1920＝43歳：***同校が東京商科大学(一橋大学の前身)に昇格した際，新たに文明史という異色の講座を創設，**
原敬首相暗殺1921＝44歳：
水平社結成・1922**＝45歳：**
_格調の高い講義で学内学外に名声を博するが，

金融恐慌・・1927＝50歳：**_養父が心臓病で倒れ，強く要請されて，両羽銀行の事業を継ぐため，停年を侯たずに教授を辞任，**
四分の一減資の大手術をし，
世界恐慌・・1929＝52歳：**_両羽銀行頭取に就任，激務をこなして再建の基礎を固めながら，母校の非常勤講師も兼務，**
海軍軍縮条約1930＝53歳：**_山形県郷土研究会の創設にも尽力。**
満州事変・・1931**＝54歳：**
五一五事件・1932＝55歳：貴族院議員，

芥川直木賞始1935＝58歳：***学園紛争がきっかけとなって大学に復帰，翌年にかけて，学長をも務め，**
_以後，銀行は嗣養子に委ね，
日中戦争始・1937＝60歳：
_再び，研究生活を送りながら，
第二次大戦始1939＝62歳：貴族院議員，
大政翼賛会・1940**＝63歳：**
日米開戦・・1941＝64歳：
・・・・・・1942＝65歳：帝国学士院会員に選ばれ，

敗戦・・・・1945＝68歳：**_日本銀行参与を委嘱されるなど，その活動は多方面に及んだが，**

新憲法施行・1947＝70歳：耳下腺癌のため，東京の癌研究所附属病院で，**_没した。**

平凡社百科事典，インターネット，